

臨床検査の現状と今後

～日臨技の方向性について～

◎代表理事長 長沢 光章¹⁾

一般社団法人 日本臨床衛生検査技師会¹⁾

現在、我が国は少子高齢化、経済のグローバル化、急速な技術革新、そして新興感染症の発生や軍事衝突などにより社会情勢の不安定といった大きな社会変動の渦中にあります。このような状況の中で医療・介護・福祉改革の荒波に、うまく乗り切れるよう日臨技がしっかりと舵取りをしなければなりません。そのために「学術の強化、そして次世代へ繋ぐ」のもと、「学問・学術と技能・技術あつての職域・職能」、そして「次世代を担う臨床検査技師の育成」を目指していかなければなりません。

具体的には、以下の事項を軸に、学術、職能そして政策のトライアングルでスピード感を持って全力で取り組む必要があると考えます。

1. 学術事業と医療 DX の強化

学術活動の再活性化に向けて、分野別の研究部門を都道府県や支部の垣根を越えた全国組織へと再編成し、部門間のコラボレーションの推奨、臓器別・疾患別の横断型連携を取り入れることで、会員の皆様が日々取り組むあらゆる臨床検査技術のエビデンスを創出できる土壌を整えます。また、急速に進歩する AI やデジタルツールを活用するため、医療 DX 推進部門等を創設し、教育研修コンテンツや AI 技術への対応を最優先課題として取り組む必要があります。当初の取組みとして、学会、研修会、外部精度管理などを学術部門として一体化し、関連団体や専門学会と共同した計画・持続性があるものとする必要があります。

2. 会員支援と次世代への継承

少子化に伴う優秀な学生の確保に向けて、中高生に対し臨床検査の魅力発信を強化します。また、社会人として大学院で学び直す意欲ある会員への支援や連携の場を提供し、医療・教育・研究・企業などが一体となった産官学のネットワークを築きます。若手会員の皆様には政策や事業策定への積極的な参画を後押しし、スムーズな世代交代を進めます。

3. 臨床検査の品質精度保証体制の構築

日臨技は、外部精度管理調査や品質保証施設認証制度を推進してきました。しかし、医療 DX の進展に伴い、測定業務の自動化はさらに加速していく状況下で、算出した検査値がどのように診断・治療に活かされ、

それが患者の QOL 向上に繋がるまで責任を持つためにも、臨床現場へと主体的に進出していくことが求められています。会員の皆様がこうした職域拡大に自信を持って挑戦できるよう、トレーニングや学術的支援を打ち出していきます。

4. 若い会員を中心とした国際交流や途上国への技術支援

協定を結んでいる韓国 (KAMT) や台湾 (TAMT) 臨床検査技師会との学術交流をできる限り共同研究へと積極的に展開し、IFBLS、AAMLS、JIMTEF および ASCP などとの連携も更に強固とし、海外へ羽ばたく機会を拡充するとともに、途上国への技術支援を行います。

5. 会員の生活と職能・職域を守るための日本臨床検査技師連盟等との連携

会員の皆様の要望や、職能・職域を守り向上させるための政策を実現するために、厚生労働省等の関連官庁、臨床検査に関する制度推進議員連盟や国会議員との対話を積極的に行い、日臨技が創設した日本臨床検査技師連盟を支援・協力することが必要と考えています。

様々な職場で日々頑張っている現役世代の皆様、かつて礎を築いてくださったシニア世代の皆様、これから臨床検査を担う若手や学生の皆様が日臨技のもとに集結していただきたい。そして、各分野を牽引する先生方、執行部・理事・委員、臨床検査関連学会・団体、各専門学会、国会議員の先生方などと共に All Japan による挙党態勢で臨み、世界を牽引できる“日本の臨床検査学”の構築を目指す所存です。

最後に、最も重要と考えております 47 都道府県臨床(衛生)検査技師会および支部間の連携が不可欠であり、会員の皆様方のご理解とご協力を宜しくお願いします。